野谷荘司山（1797m）　　オールマウンテンクラブ

2015 年 4 月 26 日　天候　快晴　　メンバー　I.O　K.O

野谷荘司山は岐阜県の飛騨と石川県の加賀の国境に位置している。地形は頂上から東側に高度 50m ほど下ったところから北方向へ三方岩岳に連なる主稜線が延び、東の岐阜県側には枝尾根が分岐している。鶴平新道（赤頭新道）は、この尾根伝いに開かれている。

この辺りの稜線は日本海からの季節風を直接受けるため豪雪地帯の山として知られている。岐阜県側の麓には有名な白川郷が存在する。ネット上での記録には野谷庄司山と記しているものもあるが、野谷荘司山と記すのが名前の由来に適っているようだ。『「野谷荘司」とは、野谷集落の源頭の山を意味し、荘司は純白の意があり、春遅くまで雪を残し、白く美しく輝く山であることから、名付けられたとされる。』と説明されていた。

この山の南側に位置する三方崩山は山スキーで登っているが、白川郷にこのように魅力的な山があることを、今回登ってみるまで知らなかった。以前、ブログにも書いたが、山を知ることによって興味が広がり、山の魅力は際限なく広がっていくと感じさせられた。山に登りたいという気持ちは変わらなくとも感動の内容は変化する。人は様々な思いや期待を持って山に登るのだと思う。そして多くの人々を魅了する何かがあるのであろう。山の経験に人生の経験が重なる場合もある。私の場合、自然側にあるものとしての季節、山という存在感、山と共にある風物、人の側にあるものとしての感動、達成感、修練、技術、時代環境の側にあるものとしての用具の変化である。これに地理、文化、歴史が加わる。仲間も大切な要素である。感動を分かち合った仲間との記憶は大切である。

スキーの記録では鶴平新道の北側の白谷を滑っているものが報告されているが、谷の滑降には雪崩が付きまとう。昨年 2014 年 2 月 16 日に尾根の斜面から白谷側に 2 件の雪崩事故が起こり一人が死亡している。それでも魅力に取り付かれ、行く人は行くようだ。翌週の 2 月 23 日の記録が UP されていた。
参照にした雪崩事故報告⇒ http://nadare.jp/2014/03/140216.html

前週に登っている記録を読み、雪が豊富に残っているとのことなので急遽計画を組むことにした。雪面はかなり荒れていたが、雪は豊富にあった。コースは鶴平新道のある尾根の南側、東谷から新道の尾根（1400m 付近）に上がることにした。滑降コースも同じコースを選んだ。5 人パーティが先行していたので追随させてもらった。ところどころの急斜面と雪がはげている所もあり苦労させられたがスキーを脱ぐことなく頂上まで登った。

山頂からの展望は申し分なし。ずっと眺めていても飽きさせない。眺めるほどに滑りたい斜面、登りたい山々が眼前に広がる。温暖にして無風快晴、申し分のない至福の時間と言えそうだ。またやって来たいと思う。下るのがもったいない気分を胸に山頂を後にした。麓では水芭蕉が咲き始め、ふきのとうも顔を出し、雪解けの春の息吹を感じさせてくれた。
登り 5 時間、下りはゆっくり 1 時間半　標高差約 1000m
参考にした報告⇒ http://hirose.gnk.cc/nodanishoji1501.html
GPS 滑降軌跡⇒工事中

登り始めの雪の状態

赤頭山を越えて

東谷を望む

主稜線への急斜面

眼下に見えるトヨタ自動車自然学校

三方岩岳方面↑　　白山方面↓

尾根に上がり赤頭山を目指す

頂上から 先行パーティがドロップ